

ライフプランを立ててみよう —自立した社会人になるために—

(総授業時数：20 時間)

実施学年、教科等

第1学年～第3学年 家庭科「家庭基礎」「家庭総合」「生活デザイン」

単元の目標

- (1) お金の大切さやものの価値を認識し、目標や夢実現に向けて適切な家計管理・資金管理ができる力を身に付けることができるようにする。
- (2) 自立した社会人になるためにどう収入を得るかなど生活設計の立案を通して、自己の生き方、職業生活の在り方について考えることができるようにする。
- (3) 社会において主体的に生きる消費者として、自己責任に基づいた適切な意思決定ができる知識と能力を培うことができるようにする。

学習の評価

- (1) お金やものの価値を理解し、適切な家計管理・資金管理ができる力を身に付け、意欲的に学習活動に取り組んでいる。(ワークシート)
- (2) 生活設計の立案を通して、自己の生き方、職業生活の在り方について思考を深め、自立した社会人になるために課題を発見し、課題解決を目指して意思決定する力を身に付けている。(ワークシート)
- (3) 消費者として必要な知識を習得し、自己責任に基づいて適切に意思決定し、それを適切に活用することができる力を身に付けている。(ワークシート)

展開の特色

- (1) 単元の構成は、学習指導要領の項目の中から、特に金銭感覚の形成を促す内容を中心に取り上げ、お金を通して自立した社会人・消費者として必要な知識や意思決定力を身に付けさせることを目指している。
- (2) 授業内容は、生徒自身の問題としてとらえさせるためにライフステージごとの生活課題とかわらせ、主体的に自分の生き方や価値観、社会とのつながりを見つめ直しながら、よりよく生きる態度を培うことを目指している。
- (3) 単元の流れは、個人の生活軸にお金の流れを考えながら構成しているが、特に生涯生活設計やキャリアプランニングの学習は大切であると考え、力点を置いている。

その他

各単元の指導計画時間は生徒に考えさせながら学習させるためにも2時間かけて取り組ませたいが、各学校で選択実施している家庭科目の単位数2～4単位に応じて、授業展開の工夫により1時間で実施することも可能である。

「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

* 記号については、P.32～45を参照。

Aーア・イ・ウ、Cーア・イ、Dーア

学習内容のキーワード

必要経費、就業形態・雇用形態、税金、社会保障、家計管理、カード、ローン、制限金利、返済計画、消費者問題、多重債務、トラブル、悪質商法、生活設計、ライフプラン、ライフコース、経済設計、収入・支出、貯蓄、計画的

●指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
1 2	<ul style="list-style-type: none"> お金の価値とは? 自分に必要なお金はいくら? 	<p>●お金の価値と消費行動</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生にとって1か月に必要なおこづかいはいくらか、具体的な金額を考えさせる。その際、自分が何にいくら使っているか1週間を振り返って書き出させ、それをもとに必要な金額を見積もらせる。 個々人が考えた案を持ち寄り、グループになって話し、具体的な金額とその根拠となった具体的な用途、優先順位について発表する。 自分が現在高校生活を送る上で、1か月にかかる必要経費(授業料・学校納付金・実習費・教科外活動費・通学費・塾代等)を調査する。 自分に必要な経費をアルバイトをして稼ぐとしたら、どのくらい働けばよいのかアルバイト情報誌を参考に計画を立ててみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分とお金との関係を見つめ直し、お金の価値について改めて認識させる。 お金の大切さを自覚し、自分の生活を見つめ直しながらお金とのかかわりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★1週間及び1か月の支出が記入できる簡単な家計簿を準備し、事前に調査しておくよう予告する。 ★おこづかいの支出調査を振り返り、本当に必要な支出だったか自分の消費行動を見直させる。 ★お金の使い方はその人の価値観を映すことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 高校生活にかかる費用の参考資料 アルバイト情報誌
3 4 本時 ①	<ul style="list-style-type: none"> 収入を得るには? 働き方でどんな差が? 	<p>●職業の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 働いてお金を得るには、様々な就業形態・雇用形態があることを知る。 フリーターが増えている現状と背景を知り、正社員との違いを収入、労働条件、福利厚生等の実態を比較しながら、フリーターの問題や働き方を考える。 特に収入面については、正社員とフリーターの生涯収入にどのくらい差があるか資料をもとに実際に計算し、現実を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生計を立てるための労働について、その意義や現実を知る。 ◆働き方を比較しながら、将来の自分の職業や人生について主体的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★正社員とアルバイトの求人票を比較しながら違いを見つけさせる。 ★求人票を具体的にしながら、アルバイトを選択させ、そのアルバイトで自分が働くとしたら実際にどういう生活になるかシミュレーションさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『これであなたもひとり立ち』ワーク4 求人票やアルバイト情報誌
5 6	<ul style="list-style-type: none"> 経済社会での自分の役割とは? 	<p>●経済社会での役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業人、市民、消費者としての立場と役割を考える。 年齢、キャリアと社会制度とのかかわり、税金と生活との関連、公的保険制度の概要や意義について理解し、一人ひとりの責任を自覚する。 働き方の違い(会社員と自営業など)によって年金保険等の種類や金額に差があることを知る。 人生におけるリスクを考えさせ、公的保険制度を補完する保険についても理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社会人として、年金、健康保険、雇用保険、介護保険などの社会保障制度を正確に理解する。 ◆社会の一員として働くことの社会的意味を理解し、共生社会の中で自分の果たすべき役割を自覚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★具体的に給与明細を見ながら、税金や社会保険について理解をさせる。 ★公的保険制度は国民全体の助け合いで運営されていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『これであなたもひとり立ち』ワーク4
7 8	<ul style="list-style-type: none"> 賢いお金の使い方とは? 	<p>●家計を管理する</p> <ul style="list-style-type: none"> 家計における収入と支出の分類や家計管理のポイントについて知る。 ひとり暮らしの生活費(自宅外で生活する大学生のひとり暮らし、社会人のひとり暮らし)について、収入に合った支出計画を立てる。 赤字になった場合、何を控えるかを考察しながら、消費行動における適切な判断力を身に付ける。 立てた支出計画の食費で、栄養バランスのとれた健康的な食事管理ができるか、再度検討させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆家計における収入と支出を把握し、生活費に対する現実的な経済感覚を養う。 ◆収入に合った支出計画を立てながら金銭管理能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★具体的に生活する上でかかる費用の参考資料を準備する。 ★住宅を賃貸するとの前提での作業に備え、賃貸物件の資料も準備しておく。 ★時間があれば、結婚生活における収入、支出計画も考えさせる。その際、貯蓄目標を具体的に考えさせ、家計管理演習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『これであなたもひとり立ち』ワーク5、6、12
9 10	<ul style="list-style-type: none"> 賢いカードの利用法とは? 	<p>●キャッシュレス社会・カード社会</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済的自立の第一歩は、自分の預貯金口座を開設することから始まる。口座開設にともなって発行できるカードの種類や機能、特徴を知り、賢く利用するための留意点、管理方法を学ぶ。 多様なクレジットカードの特徴を知り、賢い選択と利用法を理解する。 クレジットの支払い方法の違いについて、具体的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆金融機関を上手に利用しながら、家計のマネジメント能力を身に付けるための基本的な知識や技能を体得する。 ◆収集した情報を読み取り、比較検討しながら適切に選択できる力を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★カードの特徴や利用のポイントをまとめられるワークシートを準備する。 ★金融機関やカード会社によって異なるサービス内容などを調査させ、比較検討させる。 ★分割払いとリボルビング払いの違いについて、具体的に返済金額を計算させ理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『これであなたもひとり立ち』ワーク8 『金融教育ガイドブック』『クレジットカードに強くなる』

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

●指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
11 12	・お金を借りるには?	<p>●ローンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローンの種類を知る。無担保の場合、金利が高いことを理解する。 ・制限金利に関する法律(利息制限法と出資法)について理解する。 ・利息における単利と複利の違いを理解し、金利から利息や返済金額が計算できるようにする。 ・具体的に奨学金や教育ローン、車のローンについて資料をもとに計算してみる。 ・消費者金融でお金を借りると高金利で、返済期間が長くなるほど返済金額が膨らむことを、具体的な演習問題で計算しながら理解する。 ・ヤミ金融の金利の実態について、年利や返済金額を計算しながら確認し、高金利の恐ろしさを再認識する。 	◆利息の計算やローンのシミュレーションを通して利息の仕組みを理解し、金利に対する関心と感覚を養う。	<p>★ローンのシミュレーションについては、生徒が近い将来現実的にかかわる可能性の高い例(進学資金や車など)を取り上げて関心を高める。</p> <p>★単利か複利かの違いや借入期間により返済金額が大きく変わることを認識させる。</p>	・各種ローンの資料 ・『これであたもひとり立ち』ワーク9
13 14	・健全なローン返済計画とは?	<p>●適切なローン返済計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・借入金が高額で、返済が長期にわたる住宅ローンについて取り上げ、ローンにかかわる金融の知識と仕組みを理解する。 ・具体的に購入希望物件を選び、資金計画を考えながら、資金計画・返済計画のポイントを理解する。 ・長期生活設計を考えたローン返済計画について考える。 	<p>◆ローンにかかわる正しい金融の知識を学び、長期的収支を見通した適切なローン返済計画を立てる力を付ける。</p> <p>◆消費行動における情報収集と自己責任の重要性を知る。</p>	<p>★ワークシートと住宅ローンに関する資料、住宅広告、電卓を準備する。</p> <p>★長期にわたるローンの返済は、家計の長期的収支を見通して検討することが大切であることを理解させるとともに、社会の経済変動に大きな影響を受けることに気付かせ、正確な情報を的確に収集し判断することが大切であることを認識させる。</p>	・『金融教育ガイドブック』『マイホームを購入しよう』
15 16	・お金のトラブルへの対処法は?	<p>●消費者問題—多重債務—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民生活センターが実施した「多重債務110番」に寄せられた相談などから、多重債務に陥った実態を把握する。 ・ヤミ金融とはどのような業者であるかを理解し、ヤミ金融の金利が出資法の金利規制に違反していることや暴力的・脅迫的取り立ての実態を知る。 ・多重債務に陥ったときの対処法として相談窓口を知り、自己破産や個人型民事再生についての正確な知識をもつ。 ・多重債務に陥らないための対策について考察しながら学ぶ。 	<p>◆深刻化する多重債務の実態を知り、消費者としての自覚をもたせる。</p> <p>◆多重債務に陥らないための対策や陥った時の対処法を知り、適切な消費者行動がとれる力を養う。</p>	<p>★金融トラブルは他人事ではなく、自分にも起こるかもしれない問題として認識させ、トラブルにあわないためにも事前に学習することが重要であることに気付かせる。</p> <p>★ビデオ教材を試聴し、理解を深める。 参考ビデオ教材「アリtoギリギリの!! 多重債務にご用心」東京都消費生活総合センター</p>	<p>・『これであたもひとり立ち』ワーク9</p> <p>・『きみはリッチ?』</p> <p>・『金融教育ガイドブック』『人はなぜ多重債務に陥るのか』</p>
17 18	・トラブルに巻き込まれないためには?	<p>●消費者の権利と責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約を締結する際の留意事項と自己責任について理解する。 ・様々な販売方法の特徴を知る。その中で悪質商法の事例を取り上げ、どこに問題点があるのか理解するとともに、対処法を知る。 ・クーリング・オフや消費者契約法など契約解除ができる制度を学ぶとともに、消費者センターの活用を知る。 	◆消費者としての権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断し責任をもって行動できるようにする。	<p>★インターネットを利用し、最近問題になっている様々な悪質商法の事例を調査させ、グループごとに発表させる。</p> <p>★架空請求や振り込み詐欺、ネットショッピングの問題等についても取り上げる。</p>	・『これであたもひとり立ち』ワーク10、11
19 20 本時 ②	・夢実現のための経済設計とは?	<p>●生活設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフコースを考える。 ・将来の収入計画とライフプラン実現のための支出計画を立て、収支バランスや将来必要となる費用を把握する。 ・ライフプラン実現のためにいつまでにいくらお金が必要かを考え、貯蓄計画を考えてみる。 ・貯蓄をふやすための貯蓄方法やポイントを理解する。 ・発展課題として目的別貯蓄の預け先を選ぶために、安全性、利便性、収益性の観点から金融商品の特性を調査し、貯蓄の預け先を検討する。 	<p>◆夢実現に向けて、将来の経済設計を立てることの重要性を知る。</p> <p>◆長期でお金をとらえることができる能力を養う。</p> <p>◆金融商品に対する理解を深める。</p>	<p>★進学、結婚、住宅購入等具体的にかかる費用算出のための資料を準備する。</p> <p>★一生涯の家計収支を把握させ、家計管理は将来の生活を考えて現在のお金の使い方、貯め方を考えることが大切であることを気付かせる。</p> <p>★貯蓄プランは10年先のことを考え、近くの大きな目標に絞り、安全確実な商品で貯めることを指示する。</p>	

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

●本時の展開① 収入を得るためには？ 働き方でどんな差が？

本時の目標

- ア：生計を立てるための労働について、就業形態や雇用形態の違いを知ることができるようにする。
- イ：フリーターの現状と課題を知り、働くことについて意義を考えることができるようにする。
- ウ：働き方を比較しながら、将来の自分の職業や人生について主体的に考えることができるようにする。

	学習内容	●学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・就業形態・雇用形態について ・フリーターとは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●働いてお金を得るには、様々な就業形態、雇用形態があることを知る。 ●フリーターと呼ばれる人はどんな人かを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆働いてお金を得るための雇用形態や就業形態を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★賃金形態の違いについても説明する。 ★労働契約をする場合は正社員やパート、アルバイトなどの短期労働者も労働基準法や社会保障制度の適用を受けることを理解させる。 	
展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・増加するフリーターの現状 	<ul style="list-style-type: none"> ●フリーターが増えている現状を資料から読み取り、フリーターになっている割合を「100人の日本人村」に置き換えて計算しながら実態を把握する。 ●フリーターが急増している現状をどう思うか、個人の生き方や社会的背景、働くことの意義を考察し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆働くことの意義を考えさせ、職業観・勤労観を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★高校卒業後の自分の進路を意識させながら、現状を把握させ、問題意識を高める。 ★フリーター激増の背景には、厳しい経済状況の下での求人の激減という要因もあるが、青年期の発達課題として主体的に職業観を形成していく態度を育めるような助言をする。 ★正社員になるには、新卒者の方が有利なこと、アルバイト期間が長いほど不利な扱いになることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「100人の日本人村」のデータは平成16年3月末調査のもので、鹿嶋研之助・千葉商科大学助教授(当時)の講演資料より作成。
展開②	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方の違いによる生涯収入の差 	<ul style="list-style-type: none"> ●働き方の違いによって収入にどんな差が出るか、正社員とアルバイトで賃金収入や年金収入を計算しながら生涯収入の差を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆働き方の違いによる収入の差の現状を理解し、将来の生活設計・生き方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★生涯収入の計算は、定年退職までの賃金収入、退職金、定年後から年金をもらうまでの賃金収入、年金収入に分け、統計資料を参考に計算させる。 ★アルバイト収入については、やりたい仕事をアルバイト情報誌から見つけさせ、計算させる。 ★アルバイトの場合、仕事により年齢制限があることに気付かせる。 ★フリーターの場合、年金収入は国民年金になること、年金保険料を支払っていないともらえないことを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入計算のための統計資料、アルバイト情報誌、電卓を準備する。
展開③	<ul style="list-style-type: none"> ・収入面以外でのフリーターと正社員との違いは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●正社員とフリーターの違いについて、賃金以外に労働条件や福利厚生等の実態を求人票やアルバイト情報誌から調査し、比較しながらまとめる。 ●調査した結果を発表する。 ●再度参考資料を見ながら正社員とフリーターの違いについてワークシートの項目についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆収入以外に働き方で何が違ってくるのかを調査しながら、将来の職業選択を考えさせる。 ◆どのような生き方をするかは、経済的な視点も含め、多面的に検討することが必要であることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★求人票の見方を説明する。 ★求人票とアルバイト情報誌を用意して生徒に働きたい仕事を選ばせ、情報を比較調査させる。比較しやすいよう、正社員とアルバイトは同じような仕事内容を選ぶよう助言する。 ★分からない項目は参考資料をもとに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票、アルバイト情報誌をグループに1冊準備する。 ・冊数が準備できないときは、いくつか選び、プリントする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーターの課題 ・自立した社会人としての在り方・生き方とは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●フリーター生活の問題点をまとめながら、自立した社会人になるための望ましい在り方や自分の生き方について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自立した社会人としての経済生活の在り方考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★考察したことについて発表させ意見交換する。 	

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

●教材・資料等 (本時の授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

収入を得るには？ 働き方でどんな差が？

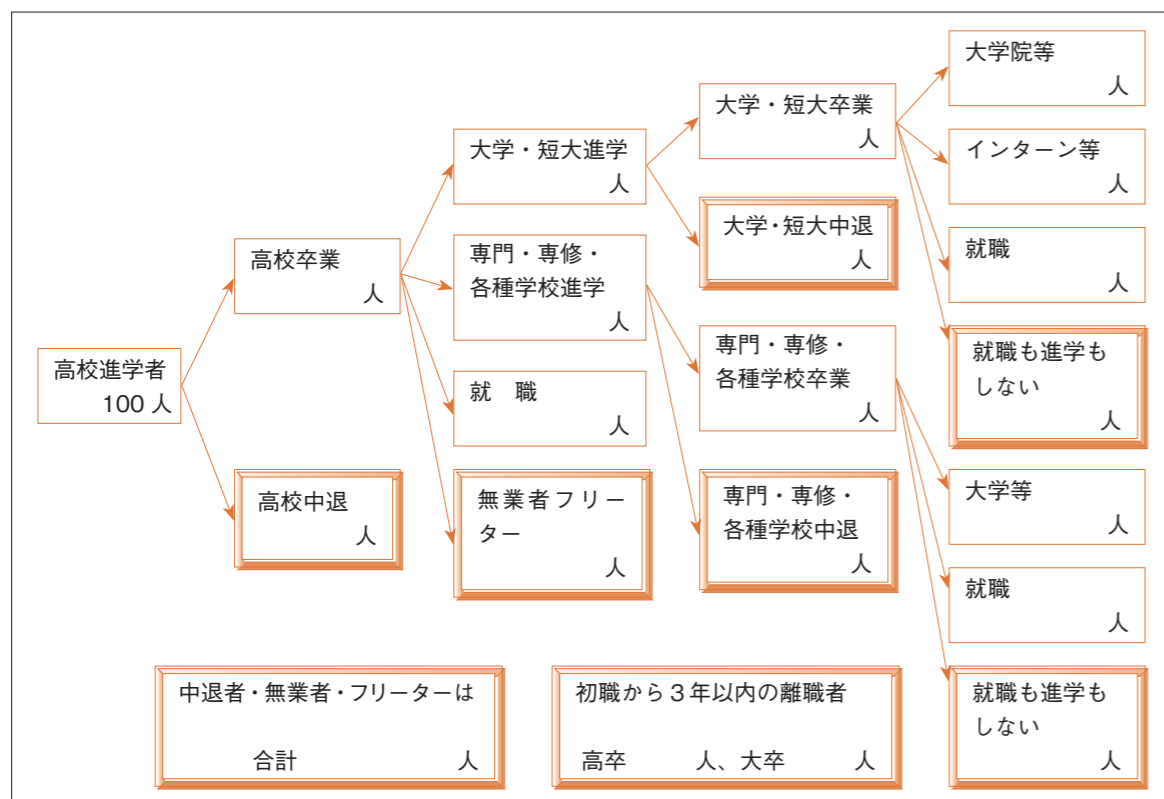
1. 働き方の形態

正社員	長期雇用を前提とした雇用期間の定めのない社員。月給または年俸制。
契約社員	契約期間と業務内容を限定して会社と契約する社員。月給または年俸制。
派遣社員	人材派遣会社と雇用契約を結び、派遣先の企業で一定期間働き、派遣会社から賃金をもらう社員。時間給 (スキルや経験で賃金が決まる)。
パート	就業時間が短時間の仕事 (フルタイムの場合もある)。時間給。
アルバイト	短期の雇用契約。時間給や日給。

フリーターとは・15～34歳の若年 (学生と主婦を除く) のうち、パート・アルバイト (派遣等を含む) 及び働く意志のある無職の人。 (平成15年版国民生活白書)

2. フリーター増加の現状

統計資料をもとに、高校進学者の進路を「100人の日本人村」に置き換えてみました。その進路状況、フリーターの割合を記入しながら現状を見てみよう。



●フリーターが増加している背景や問題点を考えてみよう。

3. 経済的な視点からフリーターが直面する課題

- 統計資料より正社員とフリーターの生涯収入を計算し比較してみよう。
 - ・正社員については、統計資料の平均年収をもとに算出する。
 - ・アルバイト収入については、働きたい仕事を選び、その時給をもとに計算する。

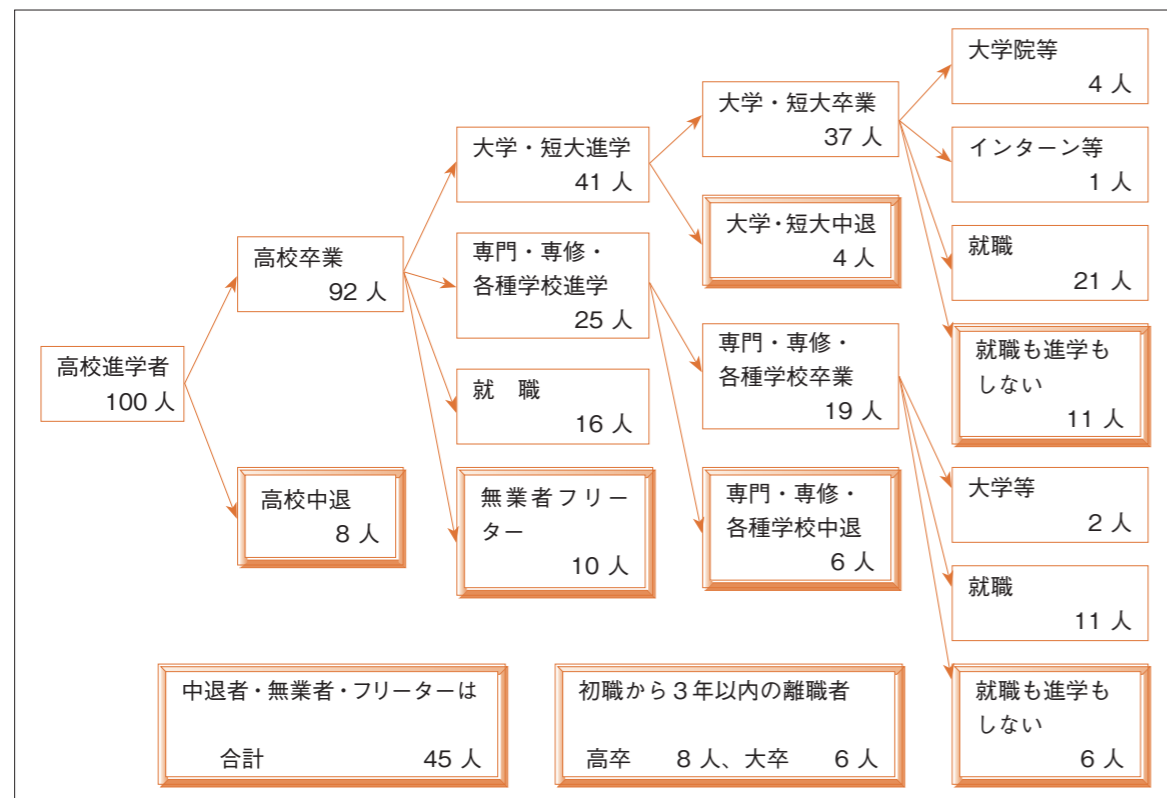
	正社員	フリーター (アルバイト)
新卒後～定年退職までの年収合計額	~ 24 歳までの平均年収 () \times () 年 $+ \sim 29$ 歳までの () \times 5年 $+ \sim 34$ 歳までの () \times 5年 $+ \sim 39$ 歳までの () \times 5年 $+ \sim 44$ 歳までの () \times 5年 $+ \sim 49$ 歳までの () \times 5年 $+ \sim 54$ 歳までの () \times 5年 $+ \sim 59$ 歳までの () \times 5年 = () 円	時給 () 円 \times 1日働く時間 () 時間 \times 1か月働く日数 () 日 $\times 12$ か月 = 年収 () 円 年収 \times 年数 () 年 = () 円
退職金	() 円	なし
60歳～64歳までの年収合計額	平均年収 () \times 5年 = () 円	時給 () 円 \times 1日働く時間 () 時間 \times 1か月働く日数 () 日 $\times 12$ か月 \times 5年 = () 円
65歳～79歳までの年金収入合計額	1年間の年金収入 () 円 (=月の平均年金 () 円 $\times 12$) $\times 15$ 年 = () 円	1年間の年金収入 () 円 (=月の平均年金 () 円 $\times 12$) $\times 15$ 年 = () 円
生涯収入合計金額	() 円	() 円

●資料より正社員とフリーターの労働条件や福利厚生等の実態を比較してみよう。

	正社員	アルバイト	正社員	アルバイト
仕事の内容			年金	
雇用契約			健康保険	
収入			労災保険	
労働時間			雇用保険	
休日			退職金制度	
ボーナス			福祉施設の利用	
各種補助手当			所得税・住民税の申告手続き	
昇給制度				

●自立した社会人としての在り方や自分の生き方を考えてみよう。

ワークシートの解答例
フリーターの現状 平成 16 年 3 月末調査



	正社員	アルバイト
仕事の内容	仕事の能力に応じて変化	指示待ちの仕事になる
雇用契約	期間の定めはない	短期・期間限定。最長1年（更新可）
収入	月給制	時給制・日給制（時給約700～1,200円）
労働時間	1日8時間労働が一般的	契約による（契約内容は雇用主の都合）
休日	有給・週休2日制が定着	有給（条件による）
ボーナス	9割以上ある	ほとんどない
各種補助手当	通勤・住宅・家族・役職手当など	通勤手当のみ
昇給制度	定期昇給制度あり 能力に応じて昇給あり	なし（時給アップのみ）
年金	厚生年金（雇用主が半額負担）	個人で国民年金を負担する
健康保険	あり（雇用主が半額負担）	なし。個人で国民健康保険に加入
労災保険	あり（雇用主が全額負担）	あり
雇用保険	あり（雇用主が半額負担）	なし
退職金制度	ある場合が多い	なし
福祉施設の利用	あり	なし
所得税・住民税の申告手続き	給与支払者がすべて行う 源泉徴収	住民税（年収99万～）、所得税（103万～）確定申告が必要

本時の目標

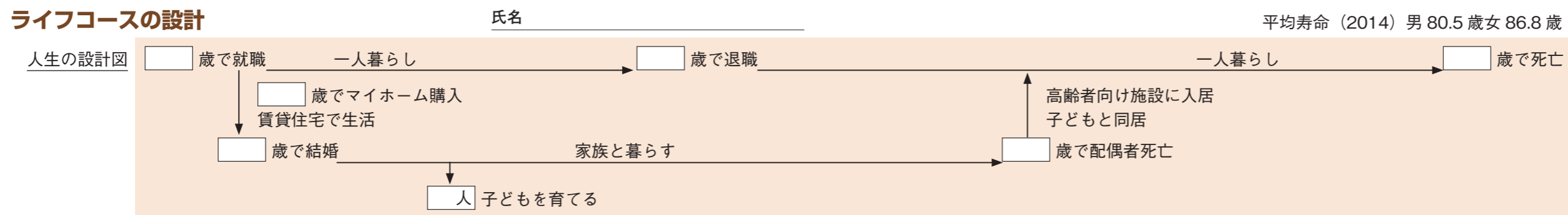
ア：長期生活設計の必要性、経済設計上のポイントについて理解できるようにする。
イ：将来の自分の生き方を想定した生涯収入と生涯支出の予測を立て、収支バランスを診断し、無理のない計画を再検討しながら将来設計を考えることができるようにする。

●本時の展開②

	学習内容	●学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他（資料等）
導入	・ライフコースと生活設計	●自分の理想とする将来の生活設計を考える。	◆人のライフコースは、いつ、どのようなライフイベントを経験するかによって違いが生まれ、それは自分の意思で実現できることを認識させる。	★職業選択と関連付けて、平均寿命までの生活設計を現実的に考えさせる。	・ワークシート
展開①	・生活設計のポイント	●生活設計上の大きな柱を知る。	◆人生において多くの資金を必要とする結婚、子どもの教育、住宅購入、老後の計画が大きな柱であることを理解させる。		・ワークシート
展開②	・経済設計の必要性	●計画実現には経済的裏付けが必要であり、具体的にどのくらいお金が必要なのか、計算しながら確認する。	◆生涯収入、支出の内容を把握させる。	★項目ごとに計算方法を説明しながら進める。 ★平均値を参考に、自分の理想とする数値で計算させる。	・費用計算のための統計資料プリント ・『暮らしと金融なんでもデータ』
展開③	・収入と支出のバランス	●生活設計から予想される収入、支出合計額を計算し、収支バランスから実現可能か確認する。	◆様々な生活設計を立案させ、経済計画の重要性について認識させる。	★生活設計が経済的に厳しい場合、収入増、支出減ができる点がないか、再検討させる。	・『これであなたもひとり立ち』 ・電卓
まとめ	・ライフステージにおける経済面の生活課題	●経済設計から気付いたことについて感想をまとめ、発表する。	◆何を優先して考えるか、ライフステージを意識して計画を立てることや不時の支出にも備えることが必要になることに気付かせる。	★計画を実現するために、今から取り組む必要がある課題についても考えさせる。	・ワークシート

●教材・資料等 (本時の授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

ライフコースの設計



経済設計

支出計画 … 1 ~ 6 _____ 円

1. 消費支出 (〜 60 歳まで) … 家賃、子どもの養育費除く生計費 **A + B** _____ 円

一人暮らし _____ 円 × 12 か月 × _____ 年 = A _____

(平均 120,800 円)

二人暮らし _____ 円 × 12 か月 × _____ 年 = B _____

(平均 168,720 円)

2. 住宅関係費用 … **C + D** _____ 円

(1) 賃貸住宅で生活 (_____ 歳 ~ _____ 歳) … **C** _____ 円

C : 契約時の支払額 _____ 円 + 家賃 _____ 円 × 12 か月 × _____ 年
(礼金 + 敷金 + 仲介手数料) (管理費等含む)

(2) マイホームを購入して生活 (_____ 歳 ~) … **D** _____ 円

購入価格 _____ 円 (頭金 _____ 円 ローン _____ 円)
返済年数 _____ 年 金利 _____ %

D : 支払い合計額 = ① 諸経費 (購入価格の 10%) + ② 頭金 + ③ (1 年間の返済額 × 返済年数)
= ① _____ 円 + ② _____ 円 + ③ (_____ 円 × _____ 年)

3. 老後の資金計画 … **E1 + E2 + F + G + H** _____ 円

(1) 老後不足する生計費 … **E1 + E2** _____ 円

E1 : 年金支給前に不足する生計費 (60 歳 ~ _____ 歳) = (_____) 年

E1 := (④ 1 か月必要な生計費 _____ 円) × 12 か月 × _____ 年 = **E1** _____ 円

E2 : 年金支給後に不足する生計費 (_____ 歳 ~ _____ 歳) = (_____) 年

E2 := (④ 1 か月必要な生計費 - ⑤ 1 か月の年金収入) × 12 か月 × (_____) 年
= (_____ 円 - _____ 円) × 12 か月 × _____ 年 = **E2** _____ 円

夫婦の場合 ④ 最低限 220,000 円 ゆとり 354,000 円

⑤ 厚生年金世帯 221,507 円 (妻専業主婦) 国民年金世帯 130,016 円

(2) 高齢者向け施設入居のための費用 … **F** _____ 円

(3) 葬祭費用 … **G** _____ 円

(4) その他旅行・介護費用等の資金 … **H** _____ 円

収入計画 (満 _____ 歳まで) … **a + b** _____ 円

自分 : (_____ 歳 ~ _____ 歳までの可処分所得 _____ 円 + 退職金 _____ 円)
= a _____ 円

配偶者 : (_____ 歳 ~ _____ 歳までの可処分所得 _____ 円 + 退職金 _____ 円)
= b _____ 円

支出計画

4. 結婚費用 … **I + J** _____ 円

(1) 婚約・挙式披露宴・新婚旅行関係費用 I _____ 円

(2) 新生活生活準備関係費用 (家具・電化製品等) J _____ 円

5. 子どもの養育費 … **(K + L + M) × 人 =** _____ 円

(1) 基本的養育費 (出生から大学卒業まで、教育費を除く) K 1,640 万円

(2) 教育費 (一人) … **L** _____ 円

公立・私立 幼稚園または保育所 _____ 円

公立・私立 小学校 _____ 円

公立・私立 中学校 _____ 円

公立・私立 高等学校 _____ 円

国公立・私立大学 文・理・医療系 _____ 円

(3) 子どもの結婚援助金 … **M** _____ 円

6. その他 車の購入、住宅リフォーム費等 … **N** _____ 円

*生涯収入予想額 - 生涯支出予想額 = 残せる財産 _____ 円

感想

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

経済設計のための統計参考資料

1. 収入

(1) 性別・年代別 賃金年間支給額 (2012年)

(単位：万円) 万円未満切捨て

年齢	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69
大卒男性	—	316	431	524	617	735	835	855	797	573	593
高卒男性	243	315	356	409	464	498	544	559	555	358	300
大卒女性	—	304	385	427	476	547	598	622	593	612	629
高卒女性	215	254	268	284	302	314	318	312	313	264	258

(出所) 金融広報中央委員会「暮らしと金融なんでもデータ 26年度版」
 ※ 収入計画には非消費支出(税金・社会保険料等)を引いた可処分所得を計算して記入する。
 可処分所得=実収入-非消費支出(実収入の18%) 2012年総務省統計局「家計調査」

(2) 25歳～59歳までの収入総額

(単位：万円) 万円未満切捨て

	大卒男性	高卒男性	大卒女性	高卒女性
実収入	23,970	16,925	18,240	10,555
可処分所得	19,655	13,879	14,957	8,655

(出所) 金融広報中央委員会「暮らしと金融なんでもデータ 26年度版」
 掲載の2012年年間支給額を基に計算

(3) 退職者1人平均退職給付額 (2012年)

(単位：万円) 万円未満切捨て

学歴	退職事由		
	定年	自己都合	早期優遇
大学卒	1,941	1,586	1,966
高校卒	1,673	1,159	1,945

(出所) 厚生労働省「平成25年就業条件総合調査結果の概況」

(4) 老後の生活資金資料

①年金支給額の見込み (2015年度)

	月平均支給額
国民年金 [老齢基礎年金(満額)：1人分]	65,008円
厚生年金 [夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準的な年金額]	221,507円

(出所) 厚生労働省資料
 ※ 厚生年金は、夫が平均的収入(平均標準報酬42.8万円)で40年間就業し、妻がその期間全て専業主婦であった世帯の新規裁定の給付水準

②厚生年金の平均的支給額 (2012年度) (単位：万円) 万円未満切捨て

	平均年収	年間支給額	月平均支給額
平均	365	178	14.8
男性	415	203	16.9
女性	277	122	10.2

(出所) 厚生労働省「平成24年度厚生年金保険・国民年金事業年報」
 ※ 平均年収は標準報酬月額×12

2. 支出

(1) 生計費

①世帯人員別標準生計費 (2013年4月)

(単位：万円)

世帯人員	1人	2人	3人	4人	5人
生計費	120,800	168,720	195,220	221,680	248,150

(出所) 人事院「平成25年人事院勧告」

(3) 葬儀費用 (2014年)

(単位：万円)

葬儀全体の支出	188.9
寺院への費用	44.6
葬儀一式費用	122.2

(出所) 日本消費者協会「第10回葬儀についてのアンケート調査報告書」

②25歳～59歳までの消費支出総額 (単位：円)

	1年間の支出	35年間の支出
一人暮らし	1,449,600	50,736,000
二人暮らし	2,024,640	70,862,400
一人暮らし3年後結婚	69,137,280	

(出所) 人事院「平成25年人事院勧告」より計算。
 物価上昇率を考慮して計算せず

③老後の生活にかかる費用 (単位：万円)

夫婦2人で老後生活を送る上で必要と考える最低限の生活費(1か月)	22.0	2014年平均寿命 男性 80.5歳 女性 86.8歳
夫婦2人で老後生活を送る上でゆとりある生活費(1か月)	35.4	

(出所) 生命保険文化センター「平成25年度生活保障に関する調査」

(出所) 厚生労働省「簡易生命表」

(2) 住宅ローン返済額早見表

X万円をY年で借りたときの毎年の元利均等返済額=借入金×下表の数値

利率	10年	15年	20年	25年	30年
1.50%	0.108	0.075	0.058	0.048	0.042
2.00%	0.111	0.078	0.061	0.051	0.045
2.50%	0.114	0.081	0.064	0.054	0.048
3.00%	0.117	0.084	0.067	0.057	0.051
3.50%	0.120	0.087	0.070	0.061	0.054

(出所) 表計算ソフトの関数を使用して計算

(4) 結婚費用 (2015年首都圏)

(単位：万円)

婚約費用	68.2	インテリア・家具	36.7
挙式・披露宴関係	370.7	家電製品	28.7
新婚旅行	62.6		
結婚式関係総額	482.2	新生活準備総額	60.6

(出所) (株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ新生活準備調査2015」
 ※注：(3)葬儀費用(4)結婚費用の各項目の金額は該当者の平均費用であり、各項目の合計は費用総額と一致しない。

(5) 子育て費用

①基本的養育費 (単位：万円)

出産・育児費用	約91
22年間の食費	約671
22年間の衣料費	約141
22年間の保健医療・理容美容費	約193
22年間のおこづかい費	約451
子どもの私的所有物代	約93
基本的養育費合計(出産から22年間)	約1,640

(出所) AIU保険会社「現代子育て経済考」2005年版

②教育費 (単位：万円) 万円未満切捨て

	幼稚園3年間		小学校6年間		中学校3年間		高校3年間	
	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
学習費総額	69	146	183	835	135	388	115	290
うち学校教育費	39	102	33	493	39	299	69	216

(出所) 文部科学省「平成24年度子どもの学習費調査」を基に算出

学費	大学4年間(医歯薬系は6年間)							
	国立	私立				薬	医科	歯科
		文系	理系	文系	理系			
	242	386	516	1,070	2,305	2,331		

(出所) 文部科学省「平成22年度国立大学の授業料、入学金及び検定料の調査結果について」、「私立大学等の平成24年度入学者に係る学生納付金等調査結果について」を基に算出。